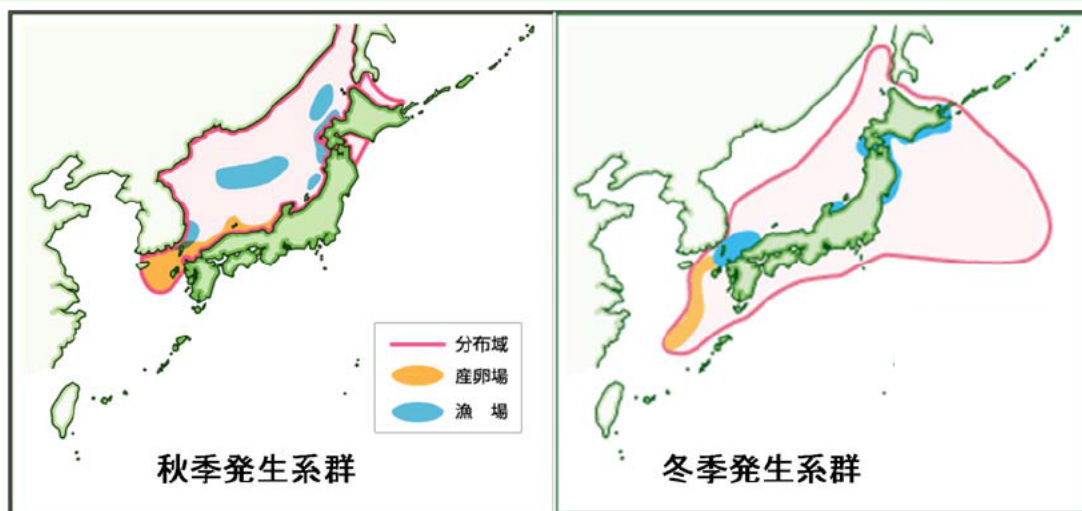




スルメイカ秋季発生系群 平成27年度資源評価結果

1

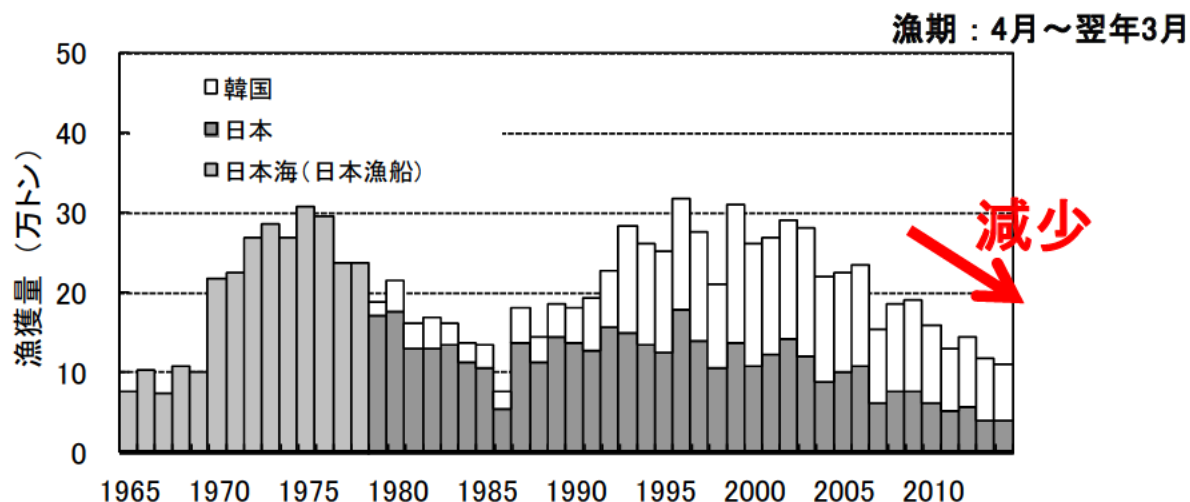
分布・回遊



単年生で、秋季発生系群は主に日本海、
冬季発生系群は主に太平洋に分布
日本海の沿岸域では主に小型いか釣り漁船、
沖合域では旧中型いか釣り漁船の
漁獲対象となる

2

漁獲量の推移



日本の漁獲量

2014年：過去30年間で最低の値**3.9万トン**

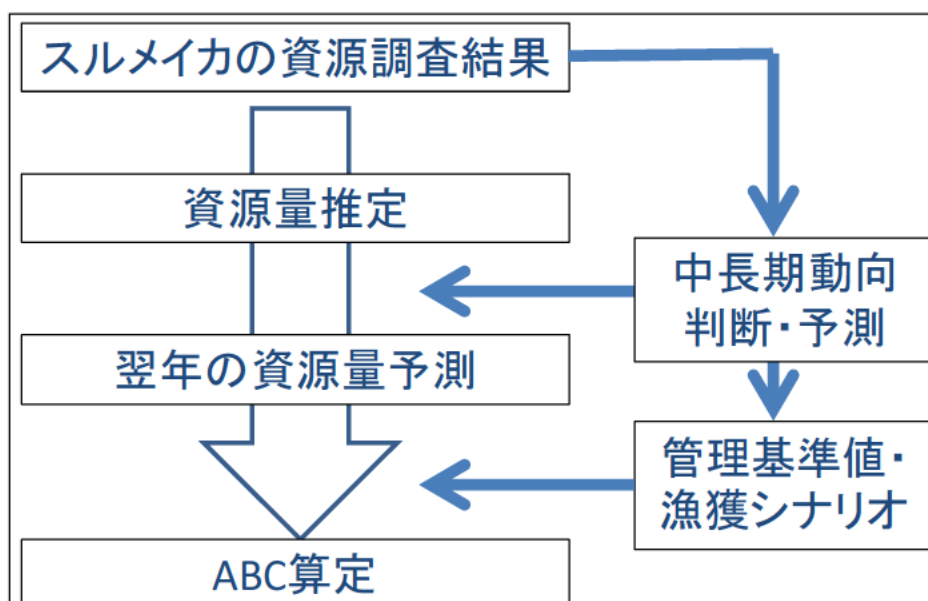
韓国の漁獲量

2014年：**7.2万トン**

3

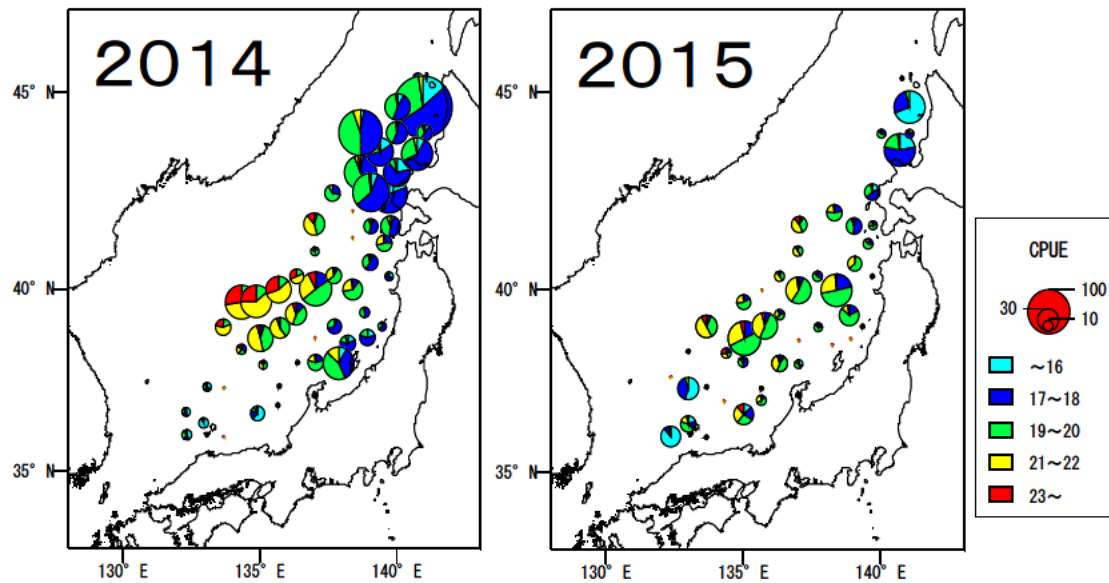
資源評価の流れ

- (1) スルメイカの資源量推定 (調査船調査)
- (2) 中長期的加入動向 (環境との関連)



4

資源状態：漁場一斉調査

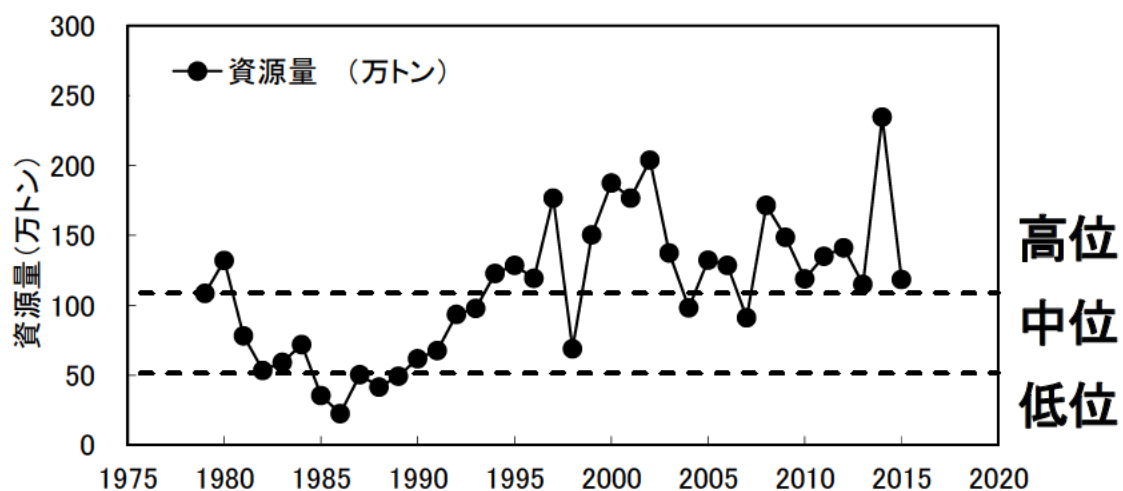


日本海におけるスルメイカの分布状況

図中●の大きさCPUE(釣機1台1時間あたりの採集尾数)に相当
各色は各外套背長範囲(cm台)の比率を示す。

5

資源量(加入量)の推移



資源量 (2015年): 118.6万トン = 高位水準、横ばい

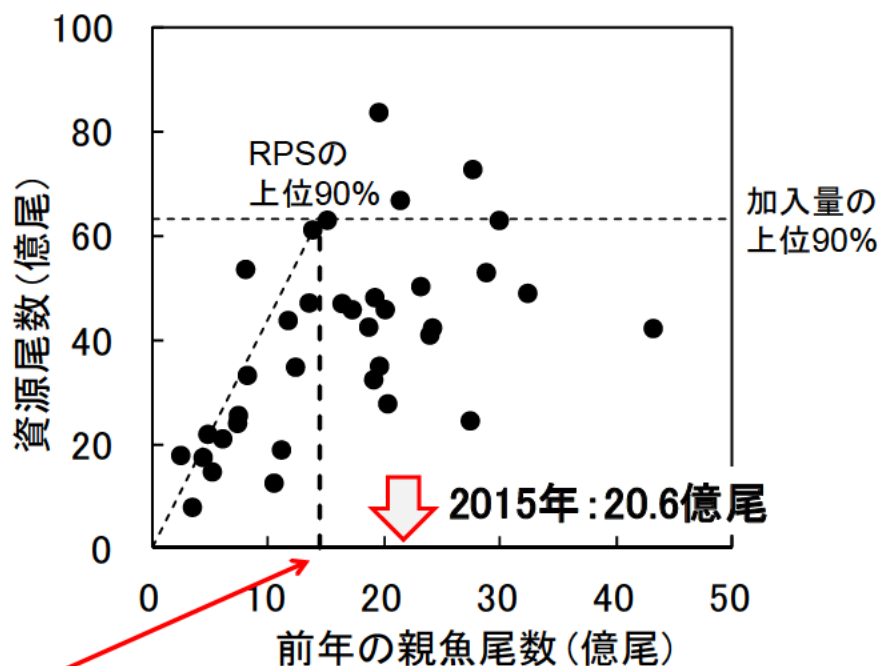
漁獲割合(2014年): 4.7%

水準区分 低位／中位: 1980年代の平均資源量(51.3万トン)

中位／高位: 1990年代の平均資源量(108.7万トン)

6

再生産関係、Blimit

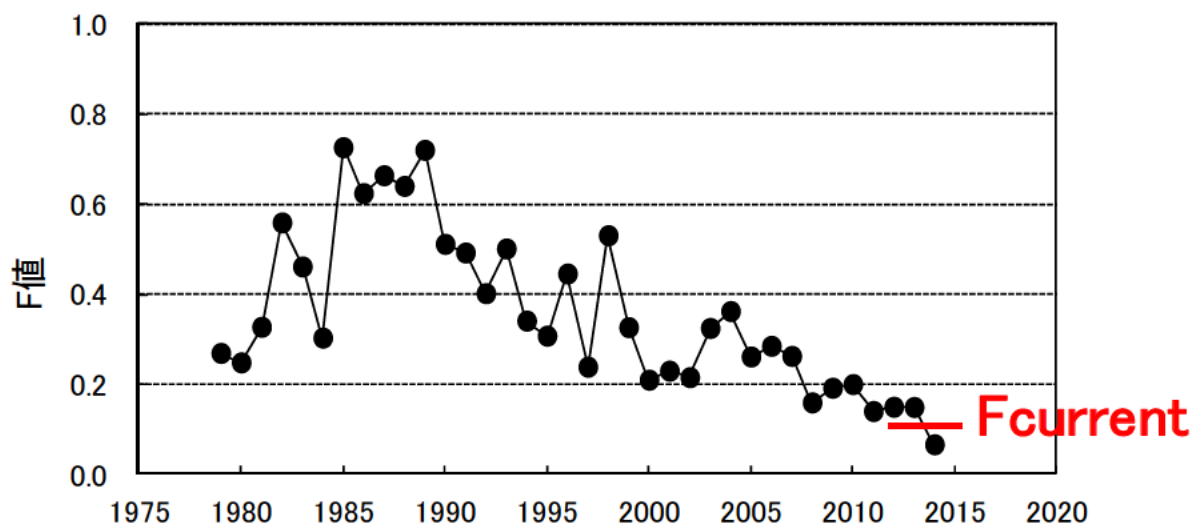


Blimit: 高い再生産成功率があったときに 高い加入量が期待できる親魚量**14.4億尾**(40.3万トン)

* 2015年の親魚量(20.6億尾)はBlimitを上回る

7

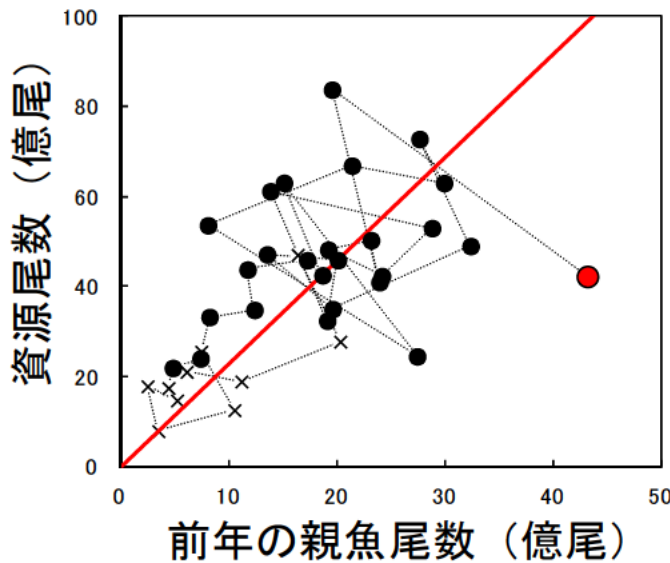
漁獲圧(F値)と管理基準値(Fcurrent)



近年3年間の平均値 (Fcurrent =0.122)

8

管理基準値(Fmed)の算定



過去23年間の
RPSの中央値＝
2.30

$$F_{med} = \ln(RPS_{med}) - M$$

ここで、M=0.6

「親魚維持の管理基準値」
Fmed=0.234

9

資源評価のまとめと2016年ABCの算定方法

・資源評価

- 2015年資源量: 高位・横ばい
- 2015年親魚量(20.6億尾) > Blimit(14.4億尾)
- Fcurrent < Fmed

・ABC算定

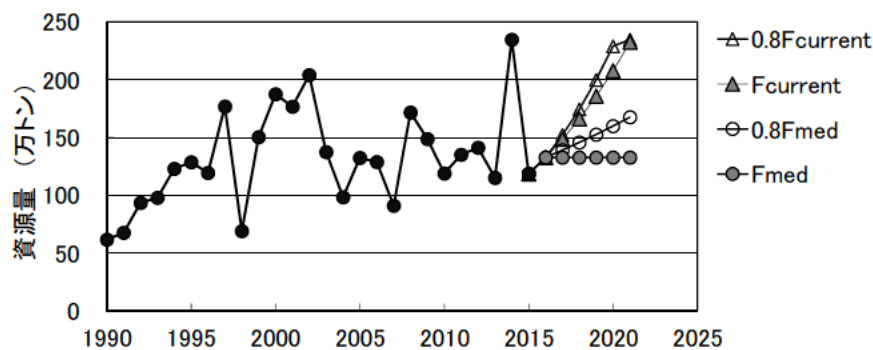
- 規則1-1-(1)
- 2016年資源量 = 2015年親魚量 × RPS 中央値
- 2016年ABC = 2016年資源量 × 管理基準

・漁獲シナリオと管理基準

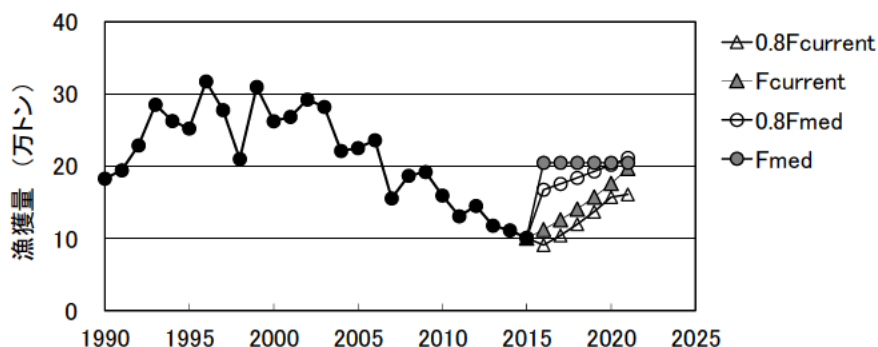
- 現状の漁獲圧を維持する → Fcurrent
- 親魚量を維持する → Fmed

10

各シナリオの将来予測



親魚量の維持シナリオ
(Fmed)を除いて
2016年以降増加



親魚量の維持シナリオ
(Fmed)を除いて
2016年以降増加。

11

2016年ABC

漁獲 シナリオ (管理基準)	Limit / Target	F値 (Fcurrent との比較)	漁獲 割合 (%)	将来漁獲量 (千トン)		確率評価(%)		2016年 漁期 ABC (千トン)
				5年 後	5年 平均	2015年 親魚量 を維持 (5年後)	Blimitを 維持 (5年後)	
現状の漁獲 圧の維持* (Fcurrent)	Limit	0.12 (1.00 Fcurrent)	8	54 ~ 326	162	74	86	112
	Target	0.10 (0.80 Fcurrent)	7	48 ~ 281	134	77	89	91
親魚量の 維持* (Fmed)	Limit	0.23 (1.92 Fcurrent)	15	56 ~ 554	263	58	73	205
	Target	0.19 (1.26 Fcurrent)	13	59 ~ 470	227	68	80	168

*を付したシナリオは中期的管理方針に合致する

12